

大阪府退教情報

23年11月6日第40号発行
発行者:大阪府退職教職員連絡協議会 代表:林誠子
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11 大阪教組気付
電話 06-6762-7999

11.3 輝け!憲法 平和といのちと人権を おおさか総がかり集会

“ひとりひとりが主役と気づき、それぞれの樹は空へと向かう、力尽きても救いはある”(たかし・あや子)
総がかり行動はいわゆる野党共闘。市民団体もみんな集まりました。コロナ前に比べると少な感じられる5000人の集会とデモでしたが、晴天夏日、頑張りました。府退教・退女教、憲法9条を誇りにする会など100人近い教職員退職者が参加しました。

メインスピーチは「ガザを救え！」……憲法学者はなぜガザに

開会挨拶は高退教会長でもある米田彰男さん(戦争をさせない1000人委員会・大阪)、メインスピーチは、憲法学者清末愛沙さん(室蘭工業大学大学院教授)「人権に基づく平和な社会を!」。清末さんは、北海道パレスチナ医療奉仕団として、毎年ガザに行っており、今年も11月13日からの予定だった。ガザには220万人のパレスチナ人が5~8km×50kmに押し込められ、イスラエルの軍事占領下にある。少なくとも2007年以降、イスラエルは押し込め、そこを爆撃している。ガザの人口の40%以上を占める18歳以下の子どもたちが死んでいく。ガザでは、日本国憲法前文の平和的生存権がない。国際法上してはならないことが行われている。国際社会の責任だ。憲法学者として、封鎖に抵抗するためガザに行く。破壊を止めなくてはならない。日本も止める働きができるはず。イスラエルの「自衛」としてパレスチナ人が殺されていく。日本の「自衛」も危険だ。

市民スピーチ 清水早子さん(ミサイル基地いらない! 宮古島住民連絡会)

「南の島に自衛隊基地はいらない!」岸田政権の「安保3文書」から、宮古島では戦争準備が怒濤のように進んでいる。ミサイル基地はもう発射できる、戦車も暑い南仕様になっている、琉球石灰岩土壌の爆弾実験も行われ、住民の遺体収容訓練まで行われている。政府は本気で戦場にする気だ。宮古島に4400人のシェルターをつくり(住民55000人)3日間持ち堪えるという。宮古・八重山住民12万人を九州に運ぶとするが、できはしない。戦争を止めてください。

政党アピール、ポテッカーアピール



立憲民主、日本共産、社会民主、れいわ新撰組からのアピールのあと、ポテッカー「いかそう憲法、とめよう大軍拡」を掲げ、南天満までパレードを行いました。

(文責:稲岡美奈子)

日本の岸田政権は今厳然と生きている「不戦を誓う日本国憲法」を順守し、①国際社会へガザへの侵攻虐殺即時停止を求め、②自国日本の沖縄・宮古の軍事基地化を停止すべきだと強く思った集会だった。(林)

扇町公園から天神橋までパレード

おかげさまで結成40周年

“40周年を振り返ると共に、ウクライナの子どもたちへの支援を、

新しく生まれ変わった大阪市教育会館東館で10月14日、「大阪市教職員退職者会結成40周年記念の集い」を行った。役員・事務局員合同会議で話し合い、俵谷会長の熱い思いを受け、上記のテーマを設定。70名を超える参加者のもと充実した会になった。



第1部 生き字引 藤澤清和さん 市教退の歴史を振り返る

事務局員の藤澤清和さんが「市教退での30年を顧みて」と題して講演。これまでの歩みで印象的だったことを伝え、今後の課題と対策を語った。

印象的だったことの1つ目は、第1回定期総会。市教組から「市教退」旗の贈呈があり、会員には、「交通費」と記念品「小鞆」が渡されたこと。2つ目は、山本修子さんを市会議員に送るため、女性部パワーが全開し、見事当選を勝ち取ったこと。3つ目として、同好会・地区居住者会の活動。最盛期には、15種の同好会が活動。地区居住者会も、市教退の活動の基盤は、地区居住者会の設置にあるとの大阪市退職公務員協議会の示唆を受け、阪神・淡路大震災もあり、市内4



地区の結成に始まり17の居住者会が発足したこと。

最後に市教退の課題(①会員の高齢化と入会者の減少、②停滞状態の諸活動)と対策(①地区居住者

会組織の再構築、②世話人を探す、③財源に適合した諸活動や行事)について訴えられた。

第2部 ウクライナ出身のカテリーナさん 民族楽器とともに平和願いを歌い奏でる

カテリーナさんは、ウクライナの民族楽器「バンドウーラ」の奏者で、ロシアの軍事侵攻が始まってからは、平和と安全、自由な世界が実現することを願い、歌を通して支援を続けている。

彼女が歌い続ける背景には、2つの原発事故がある。1つは、自ら生後1ヶ月で被爆したチェルノブイリ原発事故。そして、2つ目が福島原発事故。これらの事故で、避難生活を余儀なくされ、避難先や学校で受ける差別の苦しみについても問いかけている。後遺症にも悩まされるカテリーナさんが出合ったのが音楽だった。

彼女の澄みきった歌声とバンドウーラの音色に引き込まれ、改めてウクライナに早く平和が来ることを願わずにはいられなかった。

最後に、アンコールでカテリーナさんと一緒に「ふるさと」を歌い、平和への思いを一つにした。

ウクライナ支援として周年カンパの1部を送った。

第3部 久しぶりの会食と歓談に花が咲く

懇親会ではウクライナの歴史をパワーポイントで紹介。その後、同好会の発表を楽しみ、行動制限緩和の下での会食、歓談に花を咲かせた。



最後に、アンコールでカテリーナさんと一緒に「ふるさと」を歌い、平和への思いを一つにした。



朗読・読み聞かせ同好会



詩吟同好会



マジック同好会